

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	理科教材の整備は市の施策として充実されるべきものと考えている。理科教材購入費を追加配当することにより、学校の理科教材が整備されている。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で設定している理科教育等設備基準に対し整備率が低いことから継続して教材教具の整備に努める必要がある。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	科学的な知識、技能及び態度の習得と工夫創造の能力を養い、理科好きな児童が増えるように理科教材の整備を図る。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	学校で予算執行するため取りまとめに時間がかかるので検討が必要である。	○ 高 ● 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努める。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成17年度 決算額	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額	平成21年度 計画額	平成22年度 計画額	平成23年度 計画額
事業内容				理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実		
財源内訳	国庫支出金	0	0	193	200	250	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	11,493	8,297	17,036	0	0
事業費 (A)		0	0	11,686	8,497	17,286	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	100.00				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.12	0.12	0.12	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	1,007	1,007	1,007	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	12,693	9,504	18,293	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成21年度の事業の方向性	
○現状の規模で継続 ●拡大して継続 ○縮小して継続 ○廃止 ○休止 ○終了 ○他事業と統合	
<判断理由> 各学校の理科教材購入費の要求額に追加配当を行うことで理科教材の整備を進める。	
平成21年度取組方針	
理科教材を整備することにより学習環境の向上を図る。	
課長コメント	教材・教具等の充実は、より良い教育活動を推進する上で不可欠なものであり、今後も継続して整備を進めていきたい。